

2011年（平成23年）4月13日

各 位



株式会社大広  
総務局 広報部

**大広「ちびファミ・ラボ」育児中のママへ震災後の緊急意識調査を実施。  
～育児中のママが困っていること、食に対する意識 編～**

株式会社大広（社長：高野功）は社内プロジェクト「ちびファミ・ラボ」※の調査の一環として、育児中のママを対象に東日本大震災に関する緊急調査を実施いたしました。

今回、震災後、「困っていること」「食に対する意識」等について調査した結果、東日本大震災は、被災していないエリアでも、育児中のママたちの生活に大きな影響を与えていることが浮き彫りになりました。

「ちびファミ・ラボ」では、これからも引き続き震災後をはじめとしたママたちの生の声を調査し把握することで、クライアントサービスや社会貢献の一環として活かしてまいります。

調査概要及び結果の概要は以下の通りです。

※ 妊娠中の夫婦（プレママ&プレパパ）、そして0～6歳の乳幼児の親（パパ&ママ）の育児に関する意識と行動を把握し、リアリティのあるインサイトと、データに基づいた提案を行うことで同領域のマーケティング活動を行う取引先のマーケティングソリューションパートナーを目指す社内プロジェクトです。

<調査概要>

- 調査方法：インターネット調査
- エリア：岩手、宮城、福島を除く全国
- 調査対象者：株式会社ミリオネット「聞かせてダイレクト会員」の20～40代の子育て中のママ
- 回収サンプル数：1965（設問により、全数回答でないものもあります）
- 調査実施期間：2011年3月26日～28日
- 調査項目：東日本大震災後、困っていること/被災地への支援行動について/被災地に対して今後どのような支援をしたいか/食に対して不安なこと/食料・飲料について意識していること/食料・飲料に関して欲しい情報

〔調査結果のポイント〕

- **半数以上のママたちが、生活する上で困っていることがあると答えています。**
  - 1：子供の精神状態
  - 2：放射性物質の飛散に対する不安
  - 3：水や食品、そして育児には必需品である紙おむつ等、必要なものが手に入らない
  
- **ママたちは食への不安を解消するために、情報を求めています**
  - 1：食品・飲料への放射性物質付着の不安から、産地を確認したり調理方法について敏感に
  - 2：不安を解消するために、安全性を確認できる確かな情報を
  
- **99%のママたちは今回の震災に具体的になんらかの支援をしたいと考えています。また半数以上のママが具体的な支援行動を起こしています。**
  - 1：すでに支援をしている全員が行ったことは、「義援金をおくる」
  - 2：これから支援をしたいと考えているママからは、育児用品、ランドセルの寄付、おもちゃなどを寄贈したいなど、ママ視点の声

ママたちは生活に不安を覚えながらも、被災地の同じ子供を持つママたちへの支援も大事なことだと認識しており、実際に支援もしていることがわかりました。

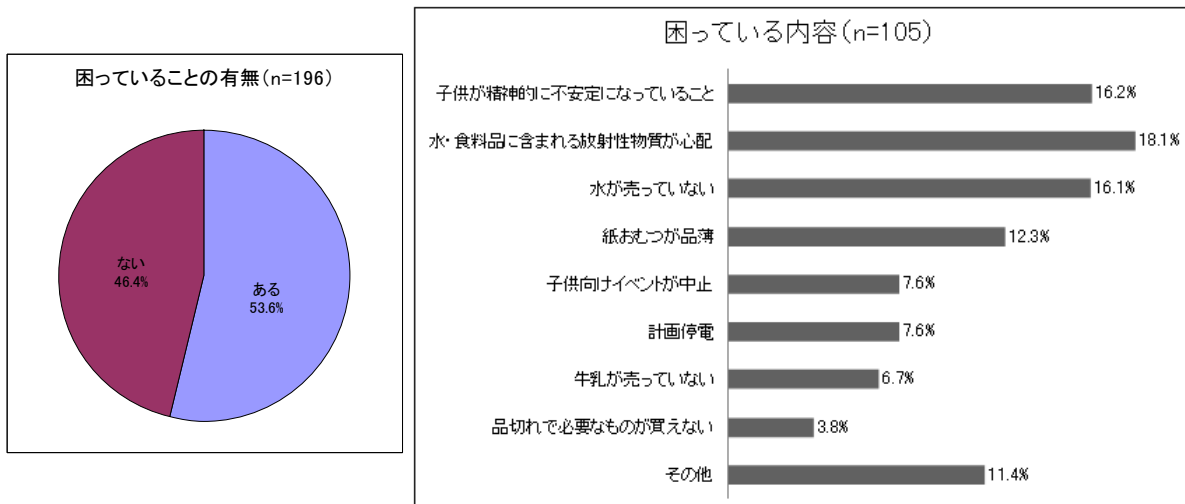
大広は、「ちびファミ・ラボ」をはじめ、様々な調査・分析を行うことにより、市場の変化や動向を展開してまいります。

## 〔調査結果詳細〕

### ■ 育児中のママに「震災後、困っていることの有無」と、その内容を聞きました。

回答者の多くは被災地以外のママですが、半数以上が「困っていることがある」と回答。具体的な内容としては「子供が精神的に不安定になっている」というものが多く見られました。

エリア別にみると、関東以北では放射性物質飛散の影響で子供の外遊びができないことなどがあげられ、東京近郊では直接的な影響はないまでも放射性物質に対する不安感などがあげられています。また西日本を含む全国で、紙オムツやミネラルウォーターなどの物資が入手しにくいという面で生活に影響が出ていることがわかります。

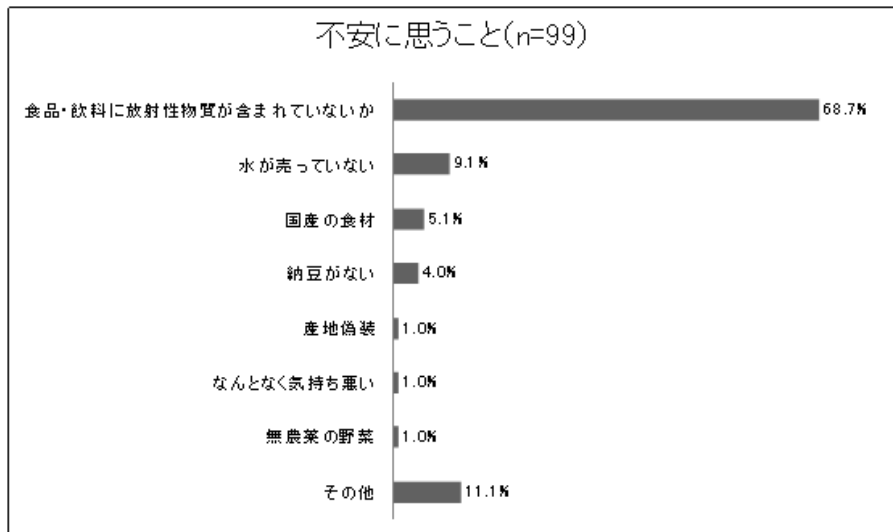


※困っていることがあると回答した 105 名の自由記述を分類。

### ■ 震災後、ママたちが食に対して不安に思うことを尋ねました。（自由回答）

震災後、ママたちが食に対して不安に思うことを自由回答形式で尋ねました。最も多かったのが食品（米、牛乳、野菜、魚）・水に対する「放射性物質の付着」。国内の広い範囲で放射性物質に対する不安が高いことがわかります。

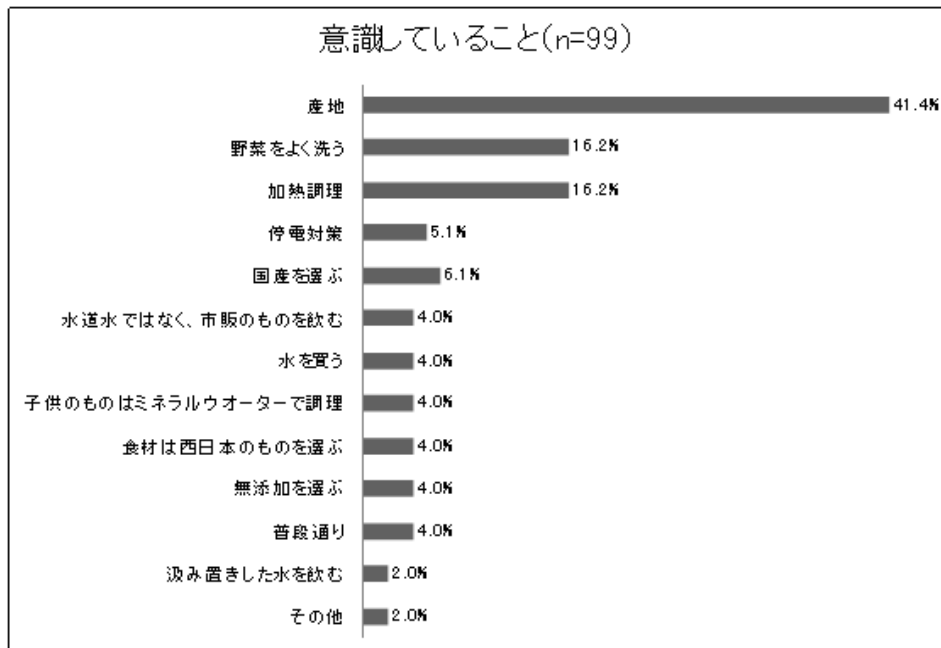
西日本・九州など、距離的に離れていても、食品の放射性物質の付着に漠然とした不安を持つ回答があがっています。また野菜など国産が入手しにくくなっていることから、外国産の食材に対する不安もあげられました。



**■震災後、ママたちが食べるもの(食材選び・調理方法・保存など)、飲むものに関して意識していることを尋ねました。(自由回答)**

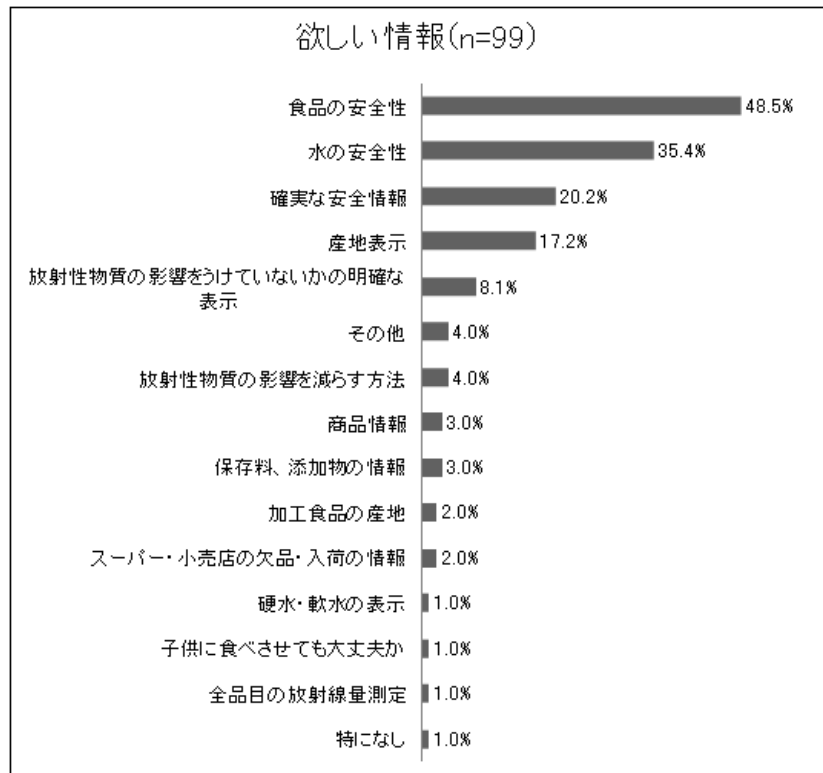
最も多かったのが「産地を確認すること」。産地を確認して購入する、という意見が多いのですが、あえて応援のために福島産のものを選ぶ、という回答もありました。

野菜は普段以上によく水洗いしたり、加熱調理を行うなど、自分たちでできることを積極的に行っていることがわかります。



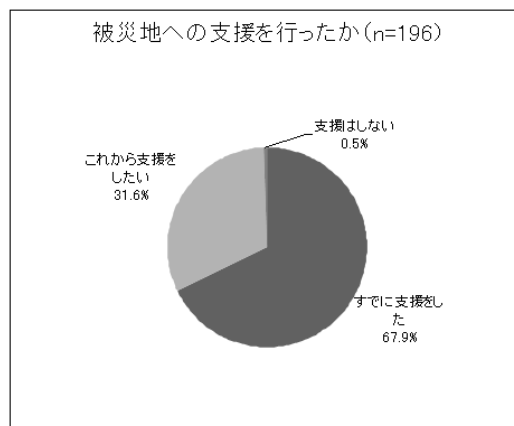
■ 震災後、食べるもの、飲むものに関して、ママたちが欲しいと思う情報を尋ねました。  
(自由回答)

最も多かったのが、「食品・水の安全性に関する情報」でした。ママたちの間では、食品や飲料・水に関して、安全性に関する正しい情報が欲しいというニーズあることがわかります。また、食品に付着している放射性物質をどうすれば減らせるのかという情報も必要とされていることがわかります。



■ ママたちに「被災地へ何らかの支援行動をしたか」を尋ねました。

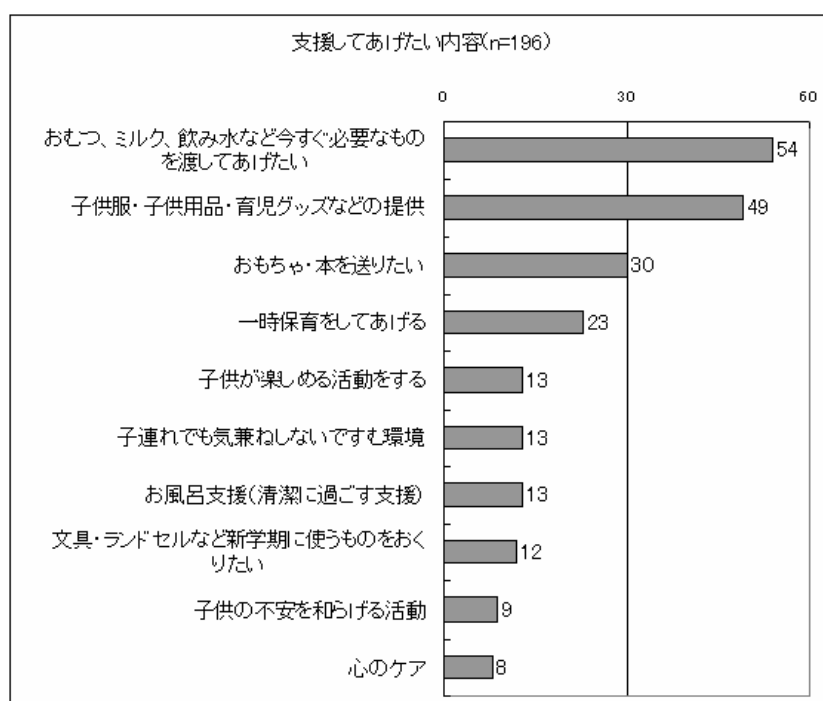
67.9%のママがすでに支援を行っており、これから支援をしたいという回答も31.6%に上っています。



## ■ 被災地への具体的な支援行動の内容を尋ねました。(自由回答)

すでに支援を行っている人の全員が義援金の寄付をおこなっていました(133人)。これから支援をしたい人の中からは、「育児用品、ランドセルの寄付、おもちゃなどを寄贈したい」という声が上がっています。また、今後、被災地・被災者へのどのような支援行動をしてあげたいか尋ねたところ、「赤ちゃんや小さい子供に対して、食事や医療面・衛生面の支援をしてあげたい」という声が多くあがり、「子供の不安を少しでも解消してあげられるような活動や、新学期に向けて学用品やランドセルの支援をしてあげたい」という、ママならではの声もありました。

大阪・神戸エリアでは、阪神大震災の体験からか「ミルク・離乳食・オムツをピンポイントで届ける」「アレルギー対応食の提供」など乳幼児に対する具体的な支援が他のエリアに比べて多くあがっていました。被災体験から学んだことが「支援してあげたい内容」に表れているようです。



※ 表中の数字は件数

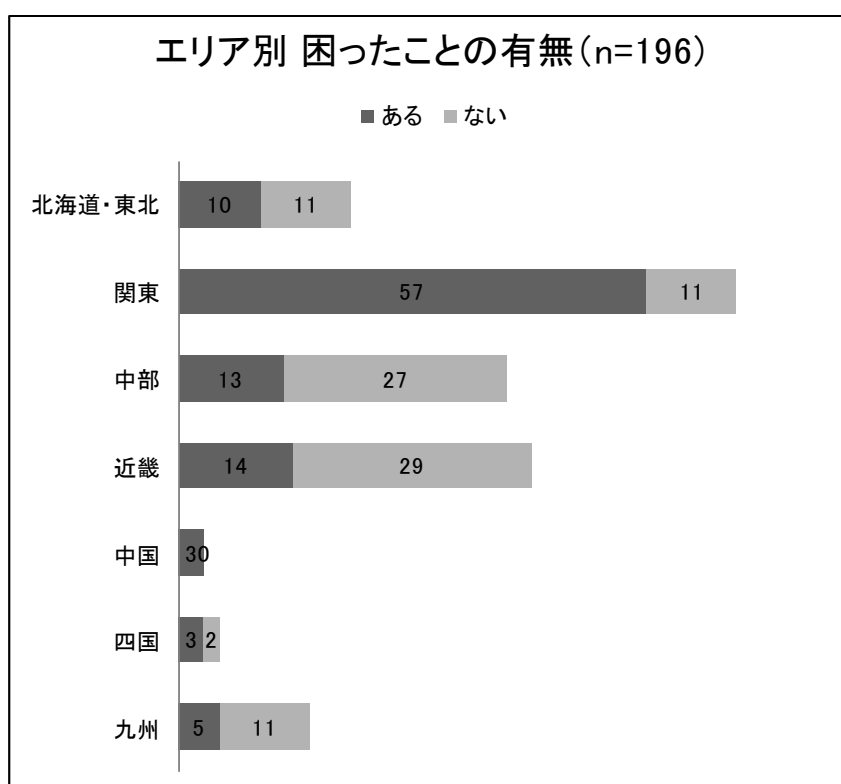
### 代表的な声

- 子どもが大きくなって使わなくなった用品を希望者がいれば、届けられるような支援があれば参加したいです。3月に小学校卒業した子がおり、まだ比較的綺麗な状態のランドセルもありますので。
- 教科書やランドセルがたくさん流されてしまったと聞いたので、ちゃんと行き渡らせてあげて欲しい。
- 体育館はストレスがたまるので、妊婦さんと生後10カ月ぐらいまでの赤ちゃんがいる家庭は違う施設で過ごさせてあげたいです。母乳が止まったお母さんの話を聞くとかわいそうです。

- 被災された方は親御さんだけでも精神的にきついと思うので、託児のような子どもも遊べるスペースがあるといいと思います。子ども番組が見られたり、絵本やおもちゃなど、たくさん置いてあるといいですね。
- 不足している育児道具やグッズなど物資を送れるといいと思う。
- 日中は子どもだけを集めて、勉強、スポーツや遊びなどを企画した方がいいかな・・・。親も休めるし・・・。

<参考>

エリア別・困ったことの有無



以上

●この件に関するお問合せは下記までお願いいたします。

株式会社大広 総務局広報部 遠藤、長谷川

TEL : 03-6364-8601